

ズラ足
上足
ガル
ル
畏

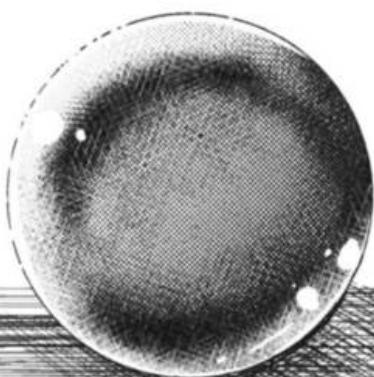
妖怪、恐るるに足らず。
人間、畏ルルガ足ラズ。



これがその
オカルトボール？

ええ

どうやら先の騒ぎは
これが原因だそうで



確かに

『外』の靈力が
かなり強いわね

……人間のくせに
結界を破つてくるなんて
なんてことですか





人間のお仕事ですわ

たとえ黒幕が
そとの人間だろうとも
異変の解決は
博麗の巫女

コロ...

異変を起こした事に
腹を立ててているのでは
ありません!!

幻想郷の
妖怪がツ

私達がツ



妖怪が
馬鹿にされたことが
許せないのです…！



妖怪は

ヒトの畏れの象徴で
ありませんか
なさいのでは

だからこそ
幻想郷では

ヒトの恐怖……
『畏れ』で在るべき
存在なのです

外の世界で妖怪が
畏れられなくなっていることは
百も承知ですが

あつては
なりません
……！

幻想郷で
妖怪が人に
舐められるなど

……いいえ

あなたの
言い分はもつとも

……無礼をお許し下さい



確かに外の世界ではもう
妖怪に対する畏れなど
微塵もありませんが――

ここは幻想郷

幻想郷において
妖怪は人間の敵である



それが例え――

外の人間であろうとも



「月」と「人間」ほど
差の重要な事

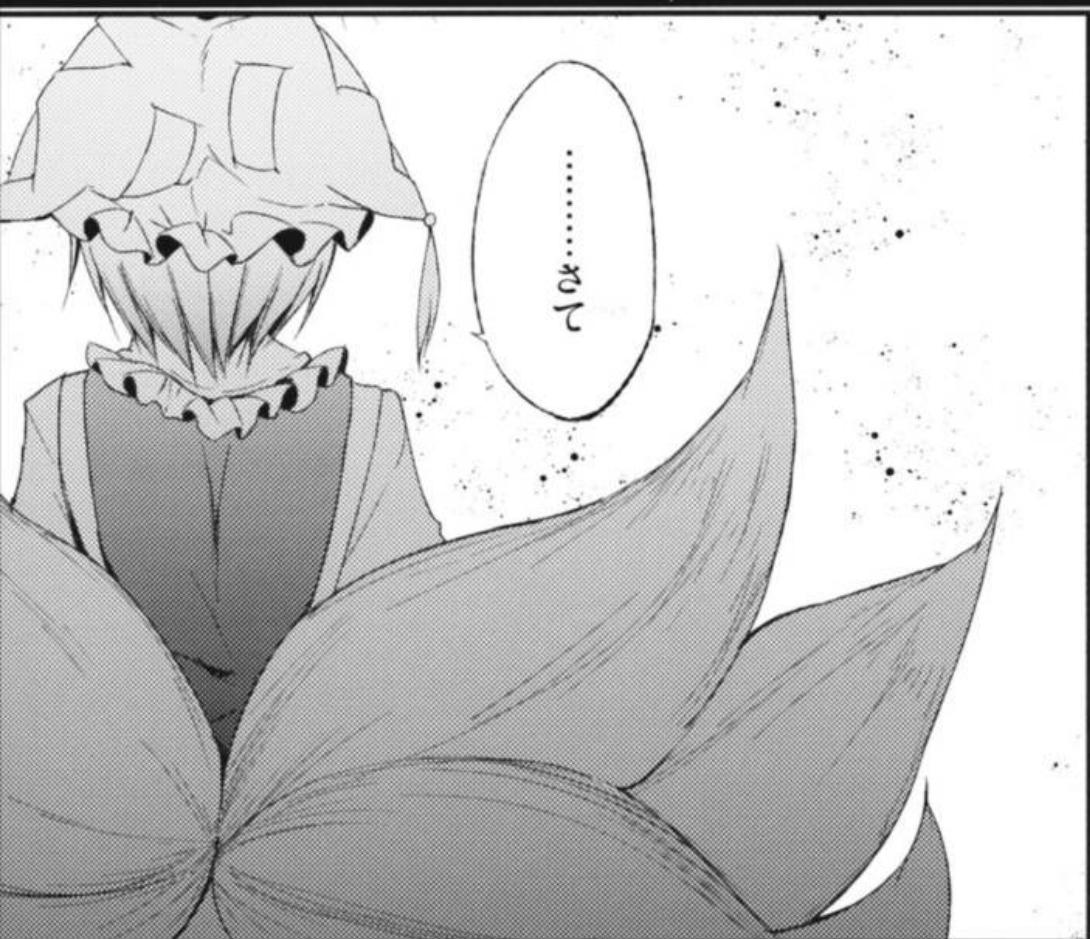
だから
その人間
については

あなたに
任せるとしましよう

妖怪を

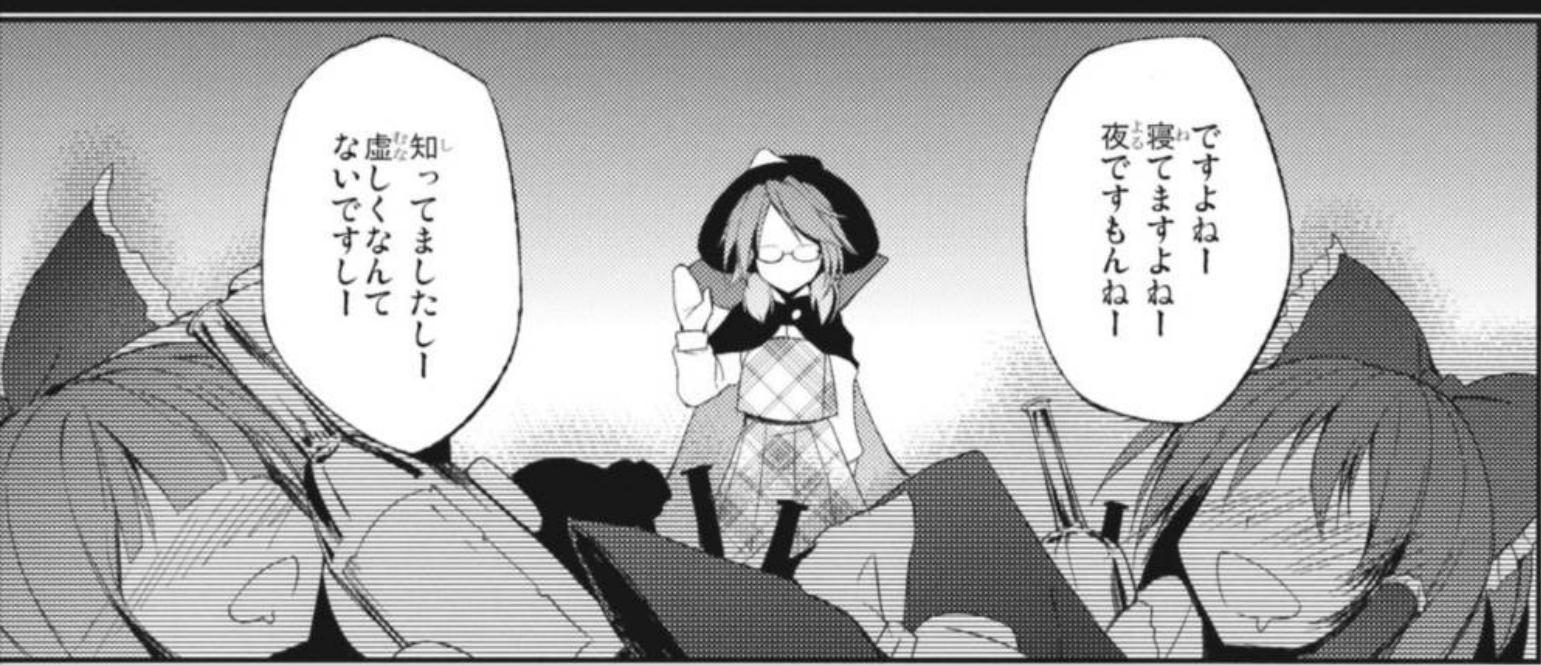
教えて
あげなさいな







わたし
私は古狸ほど……
あま
甘くはないぞ















『對等』である
必要はない

妖怪が人間を
殺すのに

え？

死し
ね





ほかの
妖怪の人や
そこまで

確
結界に
関しては
私が一方的に
迷惑かけた事だけだ

他の者がどうかなど
知つた事か

我が主に
仇なす者を討つ

…それだけだ

わからぬに
あなたはいいけど
それでいいの…?

まだ自分の立場が
分かっていないようだな

ひと
人を殺した妖怪は
巫女に退治されるつて――





私は妖怪として
この命にかえても



お前を殺す
ということだ

まあその後
私は巫女に殺されて
しまうだろうが……

いけない

この命
喜んで捨てよう

本気で私を

こいつは

主君の
為ならば



幻想郷の……

……いや



『妖怪』の洗礼を
受けるがいい

統